

施政方針の内容

令和6年度の町政の進む方向を決める、第1回町議会定例会が2月9日から3月12日まで開かれ、6年度的一般会計予算などが原案どおり可決されました。初日には佐藤信逸町長が施政方針を述べ、「誠実に町民の声に耳を傾け、次の世代に継承するための持続可能なまちづくりを推進していきます」と、第9次総合計画後期基本計画を軸に、本年度の施政方針を発表しました。ここでは、施政方針の主な内容と6年度予算の中身を紹介します。



施政方針を述べる佐藤信逸町長

「誠実・実行」を基本姿勢に 持続可能なまちづくりを推進

令和6年第1回山田町議会定例会の開会に当たり、町政運営に取り組み私の所信の一端と主要施策を申し上げ、町民並びに議員の皆さま方のご理解とご協力をいただきたいと思えます。

◆はじめに

本年1月1日に発生した能登半島地震は、多くの人命や財産を奪い甚大な被害をもたらしました。犠牲となられた方々のご冥福をお祈りするとともに被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。被災地域の皆さまの安全確保と被災された皆さまに一日も早く平穏な日々が戻ってくることを切に願っております。

新型コロナウイルス感染症の位置付けが2類相当から5類に移行し、社会経済活動にも徐々に活気が戻ってきました。一方で、長期化したコロナ禍、ウクライナ侵略や中東情勢によるエネルギー・物価高騰などが、あらゆる分野に対し大きな影響を及ぼしています。このような状況の中、「誠実・実行」を

基本姿勢として町政運営に全力を尽くしてきた3期目の任期は最終年に入り、引き続き町民の皆さまの声に耳を傾けながら、一つひとつ政策を実行するとともに、令和7年度までを期間とする「第9次総合計画後期基本計画」の各種施策により、次の世代に継承するための持続可能なまちづくりを推進していきます。

本年8月の移転開校に向けて建設が進む山田小学校は、町の将来を担う子どもたちが、新しい学び舎で充実した学校生活を送り、多様化する世界の中でしっかりと育つよう、より良い教育環境の整備を推進していきます。

国直轄事業として整備する山田北ICのフル化は、国に対し早期着工に向けて働きかけていきます。また、三陸沿岸道路の整備効果を最大限に活用するため、道の駅やまた「おいすた」や産直ひろば「ふれあいパーク山田」を拠点とした「山田町まるごと道の駅構想」の実現に向けて、産業の振興や観光による交流人口の拡大などの相乗効果を生み出すよう取り組んでいきます。

能登半島地震をはじめ東日本大震災以後も各地で大きな災害が発生しています。「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震」による災害が危惧される中、災害対策や行政サービスの拠点となる庁舎は、現状や課題を踏まえ、適正規模など引き続き検討を進めていきます。

以下、総合計画の各分野に沿って、令和6年度に展開する主要な施策を申し上げます。

健康と福祉の充実・結婚支援と子育て支援

子どもや子育て世帯への支援を強化

◆健康と福祉の充実

健康づくりに対しては、「第3期健康やまだ21プラン」に基づき、健康寿命の延伸を図るため重要となる、運動や食事の生活改善などを目的とした生活習慣病予防事業や減塩食の普及などに取り組んでいきます。

自殺対策は、令和5年度中に策定する「第2期山田町自殺対策計画」に基づき、精神保健的な視点だけではなく、社会・経済的な視点を含む包括的な取り組みを実施し、様々な分野の施策や人々、組織と連携し、「生きることの包括的な支援」として、自殺対策を推進していきます。

新型コロナウイルスに感染した場合の重症化予防などを目的としたワクチン接種は、接種費用の全額が公費負担となる制度が本年3月31日をもって終了となります。令和6年度から高齢者インフルエンザ予防接種などと同等の定期接種として実施することから、この費用の一部助成を行うことで、経済的負担の軽減を図っていきます。

乳幼児・児童生徒、妊産婦、重度心身障がい者、ひとり親家庭などに対する医療費助成は、引き続き行っていきます。また、18歳までの全ての受給者は自己負担分全額を給付し、子育て支援を強化していきます。

地域福祉は、誰もが住み慣れた地域で自分らしく暮らせるよう、年齢や性別、障がいの有無に関わらず活躍できる地域共生社会の実現を目指します。

また、高齢者福祉は、令和5年度中に策定する「高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画」に基づき、持続可能な事業の運営に努めるとともに、新たに「高齢者補聴器購入費助成事業」を実施するなど、地域包括ケアシステムの更なる推進に努めていきます。

◆結婚支援と子育て支援

新婚世帯の新生活を応援する「結婚新生活サポート事業」を継続していきます。子育て支援は、「子育て世代包括

支援センター」と「子ども家庭総合支援拠点」の両機能を併せ持つ「子ども家庭センター」を設置し、母子保健と児童福祉の連携・協働を深め、全ての妊産婦や子育て世帯、子どもに対して、心身の健康や育児に関する支援、虐待防止などに努めます。また、「出産・子育て応援事業」は、妊婦・子育て家庭に寄り添った伴走型相談支援と出産・子育て応援

移住定住支援・住民主体のまちづくり

地域の持続可能な活動と活性化

◆移住定住支援

移住者の住宅取得費などの補助や若い世代の移住を促す奨学金返還支援を継続して行っていきます。また、移住体験や交流機会の提供のほか、県内外でのPR活動やSNSでの情報発信などにより、U・I・Tの促進に取り組んでいきます。

◆住民主体のまちづくり

自治組織の活動支援は、「住民協働推進支援事業」により、地域活動の強化や自治組織の担い手育成など、地域の自主的な取り組みを後押ししていきます。

新たな豊間根地区集会所施設兼豊間根中学校校舎の解体工事完了後に着手していきます。また、利便性・安全性を確保するため、並行して国道45号からの接続道路も、改良拡張整備に着手していきます。

ギフトによる経済的支援を一体として、引き続き実施していきます。子育て世帯への経済的負担の軽減を図るため、小中学校給食費の完全無償化を引き続き行っていきます。また、未就学児の子育て世帯は、0歳児から2歳児までの保育料無償化や3歳児から5歳児までの副食費助成を引き続き行っていきます。



東京都内で開催した移住者相談会の様子

町民主体のまちづくりを実現する「山田町民提案型まちづくり事業」は、町民の思いを形にするまちづくりを実現し、地域の持続可能な活動と活性化を図る補助事業として、引き続き実施してまいります。



令和6年度の町の予算などが決められた第1回町議会定例会。33日間開会されました

交通網・環境の整備

安全で安心な施設管理に努める

◆交通網

町道は、八千代・白山線及び三浦医院前線の改良工事のほか、富士線及び島田・長内線の道路側溝の改修を進めていきます。また、町道などの維持補修は、その緊急性、必要性を考慮しながら、引き続き適切な実施に努めます。老朽化した橋りょうの補修工事は、「橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、順次進めていきます。関谷橋は、引き続き拡幅改良などに向けた検討を進めていきます。

三陸鉄道リアス線は、県と沿線市町村で構成する「三陸鉄道強化促進協議会」と連携し、地域の特性を生かした企画列車の運行や開業40周年記念事業の実施など、利用促進に努めるとともに、持続的に運行していくための支援を行っていきます。

路線バスなどの公共交通は、令和5年度中に策定する「山田町地域公共交通計画」に基づき、持続可能な公共交通ネットワークの構築に向けた取り組みを進めていきます。

◆住環境の整備

「柳沢北浜地区土地区画整理事業」は、事業完了に向け、関係者の理解のもとに換地計画を決定した上で、換地処分や清算金徴収交付事務が円滑に進むよう取り組んでいきます。

都市公園は、町内の状況を踏まえた公園整備と老朽化した遊具の更新に取り組み、安全で安心な施設管理に努めていきます。また、県立山田高等学校との「共に考え、共に創る」プロジェクトである若者を中心に集い楽しめる遊び場の整備は、中央公園「遊ビバー！」として、令和6年度中の供用開始に向けて事業を進めていきます。

水道事業は、老朽化した水道管路の耐震化と水道施設の更新事業を実施し、安全で安心できる良質な水道水の安定



中央公園「遊ビバー！」の建設予定地視察の様子
(山田高等学校の生徒と町職員)

供給に努めるとともに、経営戦略に基づき、経営安定に向けた取り組みを進めていきます。また、外山飲料水供給施設は、改良事業に併せて未給水地区である落合地区まで給水区域を拡大していきます。

下水道事業は、令和6年度から公共下水道事業特別会計と漁業集落排水処理事業特別会計を統合し、下水道事業会計として公営企業会計に移行します。今後は、将来人口や財政見通しを適切

に考慮しながら、下水道整備計画区域の見直しを実施していきます。下水道接続補助制度は、町民の負担軽減や接続率の向上を図るため継続していきます。下水道等事業計画区域外では、引き続き浄化槽の設置補助を行っていきます。

国土調査事業は、引き続き豊間根新田地区の調査を進めるとともに、荒川地区において曾根、内構、下下野、上下野、船石地区の調査に着手します。

水産業・農林業・商工業・観光の振興

第1次産業への持続的な支援

◆水産業の振興

水産業に対しては、引き続き「つくり育てる漁業」を推進するとともに、気候変動の影響に適応した新たな養殖手法などの研究・検討を進めていきます。

磯根資源の回復と漁業所得の向上を図るため、漁協が行うアワビとナマコの種苗放流事業に対しては、令和6年度も全額補助を行うとともに、ナマコ種苗の放流手法を検証する「ナマコ資源造成試験事業」を引き続き実施し、資源の造成を図られるよう漁協や漁業者と連携し取り組んでいきます。

記録的な不漁が続く秋サケは、国や県などに対し、不漁の原因究明と資源の早期回復に向けた調査研究や取り組みを強く要望していきます。

多岐にわたる問題解決に向け、漁協



増殖施設内のナマコの様子 (ナマコ資源造成試験事業)

が策定する浜プランなどの計画実行を確実かつ柔軟に支援するため、「浜の活力支援事業」を令和6年度も継続して実施していきます。

漁業担い手・育成対策は、「豊かな浜の担い手育成支援事業」により、漁業後継者や新規就業者に対し助成を行うとともに、「漁業就業者育成協議会」や「いわて水産アカデミー」と連携して担い手の確保・育成に取り組んでいきます。

◆農林業の振興

農業に対しては、「豊かな土づくり支援事業」により、農作物の収量増加と品質向上に取り組む農業者を後押ししていきます。また、田名部地区ほ場整備事業の導入に向け、引き続き事業主体である県と連携し計画調査を進めるほか、農村景観の保全を図るため、土地改良区と連携し、山田北IC付近において、ほ場のり面の補修や植栽など環境整備に取り組んでいきます。

農業担い手対策は、「新規就農者研修受入支援事業」により、研修受入経営体に対して助成を行うなど、県や関係団体と連携しながら新規就農者の確保・育成に努めていきます。

鳥獣被害対策に対しては、近年、二ホンジカに加えイノシシによる被害が著しいことから、捕獲従事者への報奨金を引き上げるなど、町鳥獣被害対策実施隊による捕獲活動の充実を図るとともに、侵入防止柵などの購入に対する助成を拡充し、更なる農作物被害の防止に向け取り組んでいきます。

林業は、「森林経営管理制度」に基づき、引き続き森林所有者に対する意向調査を進めるとともに、令和6年度から経営管理の委託を受けた森林の間伐を実施するなど、私有林の整備促進に努めていきます。

◆商工業の振興

商工業の振興に対しては、中心市街

地エリアを核とした商業地の魅力やにぎわいを創出するための取り組みを進めるとともに、山田北ICのフル化により、周辺地域への新たな企業の進出が期待されることから、工業団地の整備並びに企業誘致の実現に向けた「外部企業町内進出意向調査事業」を引き続き実施し、企業へのアプローチを進



町鳥獣被害対策実施隊が有害鳥獣駆除のため入山する様子

めます。また、低地部の移転元地をはじめとする町有地などを活用した企業誘致に積極的に取り組んでいきます。

新たな生業の創出を図る起業・創業への支援は、商工会並びに町内金融機関と連携しながら継続し、「やまだ創業サポート事業」への取り組み強化を図っていきます。また、引き続き「山田町新卒者ふるさと就職促進事業」を実施し、町内出身者の地元定着や町内事業所の雇用促進につながるよう支援していきます。

◆観光の振興

観光の振興は、「山田町まるごと道の駅構想」の実現に向けて、道の駅やまだ「おいすた」の集客効果を最大限に活用し、町内への人の流れを更に加速させるとともに、相互に集客を図る一体的なイベントの開催、オランダ島をはじめとする地域の宝を活用した体験型観光プログラムの提供に努め、更なる観光誘客に取り組んでいきます。

産直ひろば「ふれあいパーク山田」は、南方面からのゲートウェイとして魅力ある施設となるよう、リニューアル工事を着実に進めるとともに、道の駅の再登録に向け、引き続き関係機関と協議を進めていきます。

三陸ジオパークの推進体制強化を図るため、専門員として採用した地域おこし協力隊を中心に新たなジオサイトの登録に努めるほか、既存の資源を活用し、みちのく潮風トレイルと連携したイベントの開催などにより三陸の魅力発信に取り組んでいきます。

防災対策

自助・共助の防災意識を醸成

防災に対しては、今後発生が危惧されている日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震及び津波災害や近年激甚化・頻発化する自然災害などから町民の生命・財産を守るため、自治会、自主防災組織に防災資機材を整備し、町内外の方が多く利用する施設などにハザードマップを活用した看板を設置するなど、

防災体制の強化に努めていきます。また、防災士の育成を進め、連携を図るとともに、地域への出前講座などを通じた啓発活動により、自助・共助意識の醸成に取り組んでいきます。火災などの防災対策は、第4分団の消防ポンプ自動車や第10分団の小型動力ポンプを更新するとともに、消防水

利の充実を図るため、地下式消火栓と耐震性貯水槽の設置を計画的に進めていきます。

大沢新開地地区においては、高台への避難道路を確保するため、町道大開線の整備を進めていきます。

学校教育・生涯教育

各小中学校の教育環境を充実

◆学校教育

山田小学校の新校舎は、グラウンド整備や備品の配備など、本年8月の移転開校に向けた準備を着実に進めていきます。また、豊間根小学校は、学校的生活環境改善のため、新たに浄化槽を設置し、トイレの改修を進めます。

◆生涯教育
山田小学校の協働活動は、地域活動サポート1ター育成講座を通じ、活動に参画できる新たな人材の育成を推進するとともに、地域の魅力を子どもたちに伝えられる活動プログラムを展開し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていきます。

◆学校教育
山田小学校の新校舎は、グラウンド整備や備品の配備など、本年8月の移転開校に向けた準備を着実に進めていきます。また、豊間根小学校は、学校的生活環境改善のため、新たに浄化槽を設置し、トイレの改修を進めます。

◆当初予算編成

令和6年度一般会計当初予算案は、本年8月に移転開校を迎える山田小学校の新校舎が完成するなど大型事業の終了により、前年度と比べると約20億円の前減となる114億円となります。

◆終わりに
本町出身の鈴木俊一財務大臣をはじめ、昨年も多くの岩手県人が活躍しました。大谷翔平選手は野球日本代表として出場したWBCで、決勝戦の前に「憧れるのはやめましょう」とチームを鼓舞し、見事優勝を果たしました。その果敢に挑戦する姿と常に向上心を持つて誠実に野球に取り組む姿に心を打たれた方も多いと思います。本町も皆さまから「愛されるまち」であるよう、様々な課題に対し誠実に向き合い、果敢に挑戦し続けていきます。



本年8月の開校に向けて整備を進める山田小学校
新校舎の内観(学校図書館)※2月末時点